

○日時 2022年11月3日(木・文化の日) 13:30~16:00

(10:00~12:00 静岡県内「平和展・戦争展」交流会

県内のとりくみを交流します。ご都合ついたらぜひご参加ください

○会場 藤枝市文化センター 藤枝市駅前2丁目1-5 054-641-1111

身近なところから平和を学び、手作りの味を楽しむ「味平」。

こんな幸せなひとときをつくりだすことこそが、平和活動の原点かも。

今年も珈琲とケーキくらいで「味平カフェ」はできるかな。

平和の部：「身近なところから平和をつくる」

13:30~ 開会のあいさつ

平和をつくるとりくみ報告

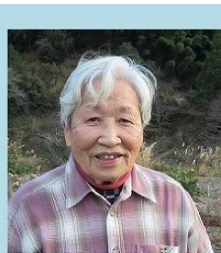
- ・全国高校生平和ゼミナール
- ・エバーグリーン藤枝 平和の旅報告
満蒙開拓平和記念館・長岳寺訪問
高知幡多高校生ゼミナール訪問
- ・藤枝市平和展 など

14:00~「中国残留孤児からの言伝」

テレビ神奈川・パオネットワーク制作 (30分) 演出/編集 内島悠介さん

日中国交正常化 50年 国際共同制作
「戦争で罪を背負った」と話す
中国残留孤児佐野陽子さん
その過酷な運命を語り伝える。

3月の佐野陽子さん講演会を取材にきたテレビ神奈川が
その後も佐野さんの取材を続け9月に完成、放映



佐野陽子(さのようこ)
1945年4月、当時8歳の陽子さん一家は京都から「平安郷開拓団」として満州に向かいました。
舒楽鎮(じょらくちん 琿・黒竜江省)には広大な土地が広がり、馬鈴薯や大豆などを植え付けます。
しかし8月にはソ連が参戦、父親はシベリアに抑留。逃げる途中でソ連機の攻撃を受け、母を失い、次いで妹の慧子さんも命を落としました。
陽子さんは、中国人の家庭の養女となり、酷使され、自死も考えますが決死の逃亡。中国人民解放軍で看護師として勤務し、58年6月、ようやく帰国。
「当時は一億政府の言う通りの人間だった。次世代の人たちは、物事を自らの目で見て、自分で考えて行動する人になってほしい」と語ります。

14:30~佐野陽子さんを囲んで

15:00~藤枝北高校演劇部

「ばらの祈り」上演(上映)

参加者で上演してみましよう

その他 ~16:00



○参加費 おやつ・飲料代

○参加申し込み 橋本 純 : hashijun@xf7.so-net.ne.jp山口 良二 : george2525peace@yahoo.co.jp

090-1864-4887

090-9663-6101

「中国残留孤児からの言伝」



荒地を開拓するのだと思っていたら、中国人の耕した土地を奪う侵略だった。



逃げる時に、仲の良かった中国人の友達が、私のワンピースを見せつけるように着ていた。



避難船をソ連軍が襲撃し、沈没。船倉の母を助けたかったが…



妹の慧子も…。避難所では、ソ連兵が金目の物を奪い、若い女性は乱暴された。



中国人の養子になり、つらい日々死を考えたが、決意して、学び、看護師に。



今も、戦争のある現実胸が痛む。



みや子 みなさん、こんにちは。
私はこの物語の語り手、みや子です。
やす子 やす子です。
さよ子 さよ子です。
みや子 この物語は、私たちの母、久保山すずの人生を描いたもの。
やす子 私たちの父、久保山愛吉は、焼津の第五福竜丸の無線長をしていました。
さよ子 そして1954年にアメリカが行った水爆実験の、人類最初の犠牲者となりました。



さよ子 父の仕事は漁師でしたが、戦後すぐには漁業は再開されませんでした。戦争中は、多くの漁船が戦争に駆り出され、ほとんどの船は帰って来なかったのです。
父は奇跡的に生きて帰ってきました。
みや子 昭和27年に、やっとまた海に出られるようになり、その翌年、父は無線長として第五福竜丸に乗船しました。昭和29年1月21日は第五福竜丸の5回目の出漁でした。長い航海の無事と、大漁を願って送り出しました。



さよ子 それは広島型原爆の1000倍の威力を持つ、水爆の実験でした。



すず 夫の体からも船体からも、とって来た魚からも高い放射能が検出されました。十日後「急性放射能症」と診断された23人は東京の病院に移ることになりました。私は悲しさと心細さと憤りでいっぱいでした。